



文/藤田 香 写真/湊 秋作(左)、キープやまねミュージアム(右)

道路や線路が縦横無尽に走る日本では、森を分断されて生息地を失う動物が後を絶たない。国の天然記念物で準絶滅危惧種に指定されているヤマネもその1つ。体重わずか18gの樹上に暮らす夜行性のネズミだが、1匹の行動範囲

は甲子園球場の半分に当たる2万m<sup>2</sup>と広く、森の分断が生息数の増加を妨げてきた。

山梨県北杜市にあるキープ協会やまねミュージアムは、ヤマネの保全活動に加え、分断された森をつなぐつり橋「アニマルパスウェイ」の研究に20年前に着手。昨年7月、北杜市の市道上に大成建設や清水建設と共同で安価な橋を設計・製作して設置した。

-20℃にも耐える赤外線カメラで観察したところ、昨年8~11月にヤマネとヒメネズミが890回も

つり橋を利用したことが判明した(写真右)。橋は長さ13mのワイヤー製の三角形型で、雪よけのアルミ屋根を乗せ、天敵から身を隠す場所を設けたり、リスも通れる工夫を施した。

「建設費は200万円と、欧米のアニマルパスウェイの500分の1。汎用性があり、どこでも建設できる。森を分断する線路も多いので、鉄道会社や国土交通省にも環境共生技術としてぜひ導入を検討してもらいたい」と、湊秋作館長は全国の森への普及を期待している。

**天然記念物ヤマネの森  
道路や線路が各地で分断  
つり橋かける救出作戦**